

第4回 都心活性化プランに関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

都心活性化プランに関する懇談会

2 開催日時

平成28年3月30日（水）午前10時～午前12時

3 開催場所

ひろしまハイビル21 17階 第1会議室

4 出席者

(1) 委員

委員11名中全員出席 代理出席1名

（野田委員の代理として、国土交通省中国地方整備局企画部 谷川 企画調整官が出席）

(2) 事務局

広島県：地域政策局長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

(3) 関係者（都心活性化プランに関する懇談会開催要綱 第5条第3項に定める関係者）

うらぶくろ商店街振興組合副理事長（インスマート株式会社代表取締役） 奥原 誠次郎 氏

広島仏だん通り活性化委員会会長（株式会社西原仏閣堂代表取締役） 西原 幸二 氏

日本郵政株式会社 本社不動産部門不動産企画部部長 似内 志朗 氏

5 議事

都心の将来像等について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者1名 報道関係者1社

8 懇談会資料名

次第

資料 都心の将来像等の修正について

参考資料1 都心の特性に係るアンケートの結果

参考資料2 広島市議会における都心活性化プラン（仮称）に係る意見や提案

9 各出席者の発言の要旨

議事

都心の将来像等について

【塚本座長】

- ・ 皆さんおはようございます。本日はよろしくお願ひいたします。それでは早速、議事の進行に入らせていただく。
- ・ 本日の進め方であるが、まず、事務局から資料「都心将来像等の修正」について説明がある。
- ・ その後、本日お越しいただいた3名の方から、御自身が関わっていらっしゃることを基本として、都心のまちづくりの考え方、都心に必要な機能等についてのお話をお伺いする。
- ・ このプランは30年後、被爆後100年を迎える広島之都心はどうあるべきかが議論のテーマとなっている。
- ・ そのような視点から広島のみまちづくり、広島之都心のあり方ということで忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思う。
- ・ その後、都心の将来像などについての意見交換の時間を設けたいと思う。
- ・ それでは、資料について事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

— 資料、参考資料1、参考資料2に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ ただいまの事務局の説明に対する意見等については、後に意見交換の場で伺う。
- ・ まずは、3名の方からお話を伺いたい。
- ・ インスマート株式会社 代表取締役 奥原誠次郎様、お願ひする。

【奥原副理事長】

- ・ 袋町を中心に中心市街地の活性化、裏袋界隈のみまちづくりをしている団体の副会長をさせていただいている。これまでの取り組みや、私たちが考えていることをお伝えしたい。

— スライドにより説明 —

以下要点

- ・ 裏袋界隈のみまちづくりを市民の視点で進めていこうと思い、約10年前から活動を始めた。
(2007年 現在の中核となるメンバーを集め、「世話人会」を発足させた)
- ・ 2008年に、袋町「裏通り」活性化委員会を発足させ、エコプロジェクトや、ホコテン等の公共交通活用実験、マルシェ等の地産地消の支援等を行っており、2010年に合意形成の取り組みとして、袋街「裏通り」活性化ビジョンを策定した。
- ・ 2011年には、県内で17年ぶりになる新規の商店街振興組合である「うらぶくろ商店街振興

組合」を設立した。

- これにより公園の利活用促進や地域活性化に資する公的な活動として、袋町公園で蚤の市 (the trunk market) 等のソフトイベント活動を展開している。
- こうしたイベント等を通じて街づくり運動の活動費等を稼いでプールをし、新たなイベントや街なかでの植樹活動等につなげている。青空の下、郊外の商業施設にはできないような、機能性だけではなく、買い物を愉しむとか新しい発見があるとか楽しい時そのものを過ごすといった価値を見出せるようなところに中心市街地の存在感はあるのではないかと、ということを引き続き提示していきたい。また、そうしたイベント等を通じてプールした財源を活用して、公益に資する自活自営のまちづくりを目指していきたいということで、2013年にコンパスという名前のまちづくり株式会社を作った。私利私欲ではなく公益に基づく、利益還元型のまちづくり、真の市民デベロッパーとして活動していきたい。
- 現在の行政主導の「ガバメント型の都市計画」では、解決できない問題が出てくるなど、どこかで行き詰まる。行政におんぶや抱っこではなく、住民・市民が、もう少し深く関わり、主体的なまちづくりを進めていく「ガバナンス型」のまちづくりへ転換していきたい。
- 細街路の整備等のコミュニティ事業は、市民主導でも十分に成立すると思う。規制緩和等を含めて、行政との新しい関係性を構築し、財政の負担軽減などにも繋げていきたい。
- 2015年に、うらぶくろ界隈の町内会や社協、住民や地権者、商業のプレイヤーなどが集まって、話し合いや、意見をまとめる組織として、「うらぶくろ界隈まちづくり協議会」を立ち上げた。
- 活動の前提にあるのは、「歩行者優先の滞在型街づくり」、都心の500メートルスクエアを中心に、ハードだけではなくてソフトも含めて、都心の真ん中をどんどん改良するような取り組みを袋町界隈でスタートしている。
- うらぶくろ界隈まちづくり協議会としては、現在、袋町公園の中にある老朽化した老人集会所を、観光客への情報発信施設や、子育てする奥様のカルチャースクールができる場所など、ご老人を含めて、みんなが使える施設にして、公園をもう少し有効活用していけるような社会実験を進めてみたいということで議論している。
- 我々の考え方の基本は、住民主体のエリアマネジメント、要するに市民が主体となって、少しずつ持てる荷物を持っていく。民間のアイデアを形として実現していくということ。
- エリアマネジメントと同時に、まち本来のデザイン、公園や川、歴史のつながりといったことも意識していかなければならない。我々は、“風”と“環”の2つのキーワードで街をデザインしていきたい。
- “風”は、風土、風景、風格、風習など、地域特有のものを表す何かである。広島風とは何か、京都や福岡と何が違うのか、それを意識しながら、プライドを持ったまちづくりをしていかなければ、広島がどことも同じ街になってしまう。
- これから人口が減っていく中で、ますます広島に住みたい、広島に行きたいと果たして思えるかどうか、この辺がデザイン的にいう広島の街づくりのポイントではないか。
- “環”は、循環や歴史的な繋がりなど、これまでの社会従属的なまちづくりから、人に優しい、楽しい、豊かに生きるといったことを表している。こうしたことに積極的に取り組んでいるポートランドや北欧のまちには、やはり住んでみたい、行きたいなど、みんな思う。

- ・ 袋町のまちの名は、大黒天の担いでいた袋が由来である。こうした歴史的な繋がりを喚起できるまちづくり、ハード整備を進めていきたい。
- ・ 社会従属的な街から自己充足的な街への転換をめざし、人優先の街、消費者がより必要とするものを提供するマーケットイン、広島発祥、こうしたことに繋がられるように、緑化や、袋町公園の新たな使い方の提案、店の前の道路を庭先のように利用する、といったように、今ある街区そのものを活かしながら、個性的な街区が形成できるように、行政の方々と一緒になって進めていきたい。
- ・ 環境共生時代の新しい都心生活像として、我々が目指さなければいけないことは、今までの社会の流れではなくて、環境と共生していきながら、そこでの豊かな都心での生活が育めるかどうかといった観点。人口がただ増えればいいというわけではなくて、土地の意味的な価値が増えていくことを考えていきながら街をデザインしていきたい。
- ・ 今後は、市民が主体のエリアビジョンを策定して、そのビジョンを、まちづくり協議会を活用しながら、みんなで承認し、広島市と一緒に、このエリアのまちづくり計画、ゆくゆくは、都市再生整備計画を描いていきたい。
- ・ そして、市からの出資を含めた公的なまちづくり会社として、都市再生推進法人を設立して、エリアマネジメントを利用したまちづくりの体制を目指していきたい。
- ・ 国土交通省で法整備がされており、札幌やその他の都市でも事例がある。民主体の、民が主導のまちづくりが現実となるように、広島市ならではのまちづくりを進めるための枠組みとして、都市再生推進法人の認可を広島市にお願いしたい。できれば、都市再生整備計画も広島市と一緒にやりながら進めていけるようにしていきたい。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 引き続き、広島仏だん通り活性化委員会 会長 西原幸二様、お願いします。

【西原会長】

- ・ 本日は、広島市仏だん通り活性化委員会の概要や取り組み等について説明させていただきたい。

— スライドにより説明 —

以下要点

- ・ 仏だん通り活性化委員会は、「流川・薬研堀地区の健全で魅力的なまちづくり協議会」主導で、東西軸の旧西国街道である、「仏だん通り」を色々な面で良くしていこうということで、平成20年に発足した。
- ・ 仏だん通りの三町内会で構成し、昼も夜も賑わう仏だん通りを目指し、活性化事業、広報、整備、防犯という4つの柱で行動する会である。
- ・ 西国街道とは、近世の山陽道で、五街道（東海道・中山道・日光道・奥州道・甲州道）に次ぐ重要な位置を占めていた街道であり、江戸時代に入り、城下町として街道筋の整備が進め

られ、多くの商店が建ち並ぶ、大阪以西随一の繁華街として発展してきた。

- ・ 戦前は、仏壇通り周辺に40数軒の仏壇店や、その関連した店があったが、原爆投下により壊滅した。戦後復興時には13軒の仏壇店を中心に洋服店、金融業、旅館など色々な商店ができ、昭和55年頃から、仏壇通りや胡通りに料飲ビルが立ち並ぶようになった。
- ・ 会の取り組みとしては、4月8日のお釈迦様の誕生日前の1週間に、広島仏壇通り祭「花まつり」として、様々なイベントを行っている。
- ・ 昼間には広島仏壇の伝統工芸体験見学のツアーを行い、仏壇店で、漆塗りや御香作りなどの体験や、仏壇にまつわるお話を聞いていただいている。
- ・ 今年1月に、西国街道を再認識していただくために、リーフレットを作成した。
- ・ 3月28日に、猿猴橋復元の竣工式があったが、猿猴橋は「まちなか西国街道」の東の入口であり、広島駅前地区の象徴的なモニュメントである。
- ・ これから始まる「えんこうさん」のお祭りなど、広島駅前地区のイベントについても、西国街道という共通点を切り口にして、何か一緒にできないかと考えている。
- ・ そのために、まずは、街道沿いの地元の者が400年の歴史と伝統のある街であるという共通認識を持つため、わかりやすい「まちなか西国街道」の歴史的マップを作成し配布した。
- ・ こうした活動を出発点として、現在、まちなか西国街道の町内会や関係団体を中心に、「まちなか西国街道」活性化協議会の設立に向けた協議を進めている。
- ・ 八丁堀・紙屋町・本通り等地区の商業的中心核は広島 No.1 であるが、広島駅周辺地区との2つの核の融合策を進めることが、商圈の拡大、広島市のさらなる発展を導くものであり、中国地方の中核都市としてのあるべき姿といえる。
- ・ それを実現するためには、広島駅から八丁堀・紙屋町中心部の回遊性を高めていくことが重要である。回遊性を高めるために、「まちなか西国街道」をキーワードとして、西国街道の周辺地域をリニューアル、リバイバルすることが欠かせないと考えている。
- ・ そのためには、①楽しく魅力ある商業地帯を目指し、関係者が一体となった活性化事業の展開、②観光客や来街者が「まちなか西国街道」の歴史や文化を感じながら、喜び、安心して歩ける環境整備の実現に向けて行動をしていくことが必要であると考えている。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 引き続き、日本郵政株式会社 本社不動産部門 不動産企画部部長 似内志朗様、お願いする。

【似内部長】

- ・ 日本郵政グループの民営化以降の再開発について、どのような開発を行い、どのような機能を備えてきたかについて、ご説明させていただく。

— スライドにより説明 —

以下要点

- ・ 以前は、鉄道による輸送が中心であったため、全国の主要駅の駅前に中央郵便局が立地して

いたが、現在はトラック輸送に変わったため、物流等の拠点が駅前から高速道路のインターチェンジ等の周辺に変わった。こうした機能の移転が進んだこともあり、郵政グループでは、もともと駅前にあった旧中央郵便局の再開発を行っている。

- ・ 郵便局は、地域や社会と根強い関係があり、民営化以降も、郵政グループは、トータル生活サポート企業を目標として掲げている。そのため、再開発等の不動産事業についても、自分だけが発展すれば良いということではなく、地域とともに発展していきたいといったスタンスで行っている。
- ・ 一方で、地域とともに発展していくためには、中長期的に利益が見込める必要があるので、中長期的な視野に立った不動産開発事業を進めている。
- ・ 郵政グループによる不動産開発事業の事例として、JP タワー（東京丸の内）、JP タワー名古屋（名古屋駅前）、札幌三井 JP ビルディング（札幌赤レンガ道庁前）、KITTE 博多（博多駅前）を紹介。
- ・ 私見としての広島に対する思いを紹介させていただく。
- ・ 広島は、地形的な制約により、密度の高いコンパクトな都市になっているが、この密度感が非常に魅力になっていると思う。
- ・ 楯円の都心と言われているが、そこに都市機能を回帰させていくことが、コンパクトシティの面でも、非常に重要であると思う。
- ・ 広島は歩いて、とても楽しい街である。特に川沿いの風景は、他の都市にはない、非常に素晴らしい資源だと思うが、あまり人が歩いていないのは残念である。歩いて楽しい街といった方向に向かっていくことが重要なのではないかな。
- ・ 広島は、路面電車や歴史的建造物を含めて、非常に資源に恵まれている都市である。
- ・ 川沿いのカフェは、広島には当たり前にあるが、こうしたものは東京にはなく、大きな魅力であり、もっと生かしていくことができる。
- ・ もう一つはソフト面の資源、20年近く前に、広島に出向したが、「イノコ祭り」に非常に感動した。この祭りを見るためだけに、プライベートで何度か広島を訪れている。
- ・ こうしたソフト面の資源の魅力を100%、120%出せるようにしていただきたい。
- ・ インバウンドについては、ニーズとのマッチングが重要である。誰がお客様で、お客様は何を望んでいるのか、これは考えることではなく、お客さんに聞けばわかる。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。只今3名の方からお話を伺ったが、折角の機会なので、質問等があればお聞きしたい。

【下村委員】

- ・ 似内さんのお話の中で、広島のポテンシャルといったお話があったが、現在は広島駅周辺で再開発が積極的に行われている。
- ・ それに合わせて、駅前にある広島東郵便局のリニューアル等の予定について、話せる範囲で結構なので、聞かせていただきたい。

【似内部長】

- この質問は必ずされると思っていた。
- 資料にも記載しているが、現在は、全国的にも広島東郵便局のような駅前の好立地の郵便局で、再開発されていないものがいくつかある。
- 日本郵政では、このような郵便局に対して、再開発を含めて全国的に検討している。できれば、再開発をしていきたいとは考えているが、現在の郵便局の機能を維持していくことも含めて検討していく必要がある。
- また、どのような事業であれば成立するかについても検討していく必要がある。どのように実現させていくか、どのような事業をしていくか。この2つの検討を行い、可能であると判断されれば、開発を進めることはできると思う。今は、あくまで検討段階であり、現状では何も決まっていない。

【塚本座長】

- ありがとうございます。その他に質問等があるか。

【谷村委員】

- 質問よりも感想のようなことであるが、先日の土曜日、地方創生の関連で石破大臣が来られたが、いくつか全国の先進事例の発表があった。その中で、松山市の株式会社まちづくり松山の方の発表があり、地域マネジメントの話があった。また、「道の駅たたら壺番地」をやっておられる方の発表もあった。
- 先ほどの奥原さんの話を含めて、両者の発表で共通していると思ったことは、きちんと収益を還元できる構造を整えているということ。
- 今、日本版DMOなどいろいろあり、これからは、「収益を還元できる仕組み」、「人材の育成」といったことが、非常に大きなキーワードになると思いながら、奥原さんもそうしたことをやられているので、広島でも大きく育っていけばよいと思った。

【塚本座長】

- ありがとうございます。これに対して、奥原さんから追加で説明したいことがあればお願いします。

【奥原副理事長】

- 特にはないが、組織は作っているが、現実問題として、どうやって収益を埋めていくかといったことは、本当に大変な話である。
- 店舗を借りて、何か商売を始めましょうといったことは、一般的な商業であり、ポイントは、公共空間等の公共的なものについて、規制を緩和していただいて、あるいは利用を許可させていただくことであるが、(袋町公園での蚤の市の写真を示しながら)このようなことをしても、儲からない。
- まちの公益に資する形で、公共財を使わせていただき、運営については、ビジネスの最先端の手法、観点を使っていく。

- ・ あるいは、儲けるといったモチベーションを上手く利用させていただいて、それにより得られた収益の一部を、納税というカタチを通じてからの地域還元という旧来の循環ではなく、歩留まりの良い最も効率的且つ最適な直接的に地域投資するといった形で、必ずその地域に還元させていただく、このような形が一つの新しい手法。
- ・ 稼ぐ手法については、たくさんあるものではないので、先ほどの例にも出したが、共同でごみの収集をさせていただくなど、シェアリング・エコノミーとして取り組んでいるが、あのくらいのことしか、まだまだ発想できていない。
- ・ 例えば、この蚤の市も80店舗ほど集まれば儲かってくる。まだまだ赤字であるが、こうした公益に資する取り組みで得られた利益をプールし、そのプールが続けば、まちなかの植樹活動やベンチの設置などにつなげていける。
- ・ さらに大胆なことを言うと、道路や歩道や公園などの公共空間の利活用。例えば、我々のような民間デベロッパーが自由にそれらを活用できるようになるとか、あるいは道路の一部の占用許可を得て、歩行者向けの広告看板を掲示するような上手い仕組み、そのようなことが何かできないかといったことを模索している。
- ・ 先ほども志半ばと言ったが、都市再生整備計画の認定を受けて、道路や公園、あるいは川沿いや平和大通り沿いの緑地帯など、もう少し賑わいを生み出すために利活用できるものがあるのではないかな。
- ・ それをリース的に、きちんと手続きを踏んだ上で、組織がまちづくりを行い、持続的に収益を上げていくことができればよいと考えている。
- ・ 都市再生整備計画を市とともに策定していき、道路の規制を少し緩和していただくことにポイントがあるのではないかと考えている。

【塚本座長】

- ・ 事務局から、都心の将来像の修正案が示され、また、3名の方から都心に必要なことのヒントということで、お話を伺った。
- ・ 残りの時間で、事務局から示された将来像がこれでよいかといったことについて意見をお伺いしたい。
- ・ 将来像の「てにをは」を直すといったことは、全く本質的なことではなく、このようなキーワードがある中で、都心が何を指すのかということが重要である。
- ・ さきほどの資料の都心の将来像と目指す姿については、前回までに各委員からいただいた御意見等を踏まえて、事務局で作成しているということである。
- ・ これを踏まえて、さらには、本日のお話を伺った中で、是非将来像の中にはもう少し、このような言葉を盛り込んで欲しいといった御意見や、どのような都心にするためにどんなことをやってみたいかといった思いについてお聞きしたい。
- ・ 奥原さんの発表の中で、「新しい都市生活」といったキーワードが出てきて、これは今までにはない言葉で、はっとした思いをした。
- ・ 例えば、外国に行って、かならず市場に行って見たいと思う。そこで、その地方の美味しいものを買っては帰れないが、ピクルスがたくさん並んでいるとか、そのような風景を見て、ここに来たことを実感したりすると思う。

- ・ そこに日常的な買物をしに来ている人がいるということが都市生活だなといったことを、先ほどのお話を聞きながら思っていた。
- ・ このように、こんな都心だったらいいなといったことを、各立場から皆さんに、一言二言、感想なども含めてご意見をいただきたい。

【谷村委員】

- ・ この将来像、それから基本的な考え方、委員の皆さんのご意見をいただいて、要素はそれぞれ盛り込まれていると思う。後は先ほど「てにをは」といった話もあったが、言葉をもう少し磨いていただければと思う。
- ・ ひとつだけ言わせていただくと、「こうして誰もが集えるようなまちにする」「人を惹きつけるまちにする」、「そこに人が集まってふれあいと交流ができるまちにする」ということは、新しいことが生まれてくるといったイメージがある。
- ・ 逆に今度は外に向けて、特に広島の場合は世界に向けてといったこともあるので、サブタイトルの方でもよいが、「新しいものが生まれる（「創造）」といったことと、「発信」していくといったことが要素に入ればなと良いなといったことを意見させていただく。

【野田委員(谷川代理)】

- ・ 代理ではあるが、まったくもって良い取り組み・活動がなされているなど感じた。
- ・ 私の個人的な感想で申し上げれば、30年後の絵姿となると、確かに人口ピラミッドも変わっていたりして、経済の方もどうなっているかわからない。都市としても求める機能が分からない。
- ・ このような中で、あぐらをかいてはダメだろうと思っていたが、このような形で様々な取り組みがなされていることに関して、非常に敬服している。
- ・ おそらく広島のための広島だけではなく、中国ブロック全体としての広島、中四国全体を見渡した時の広島という位置付けもあろうかと思う。
- ・ 万が一広島がこけてしまうと周りも一緒にこけてしまうことになるので、周辺の市町のこともしっかりと意識いただきたい。広島以外のところは、おそらく広島より人口減少が厳しいと思われる。

【野原委員】

- ・ 3名の方に発表いただいた最初のプレゼンが本当に素晴らしく、3名の方々のプレゼンの内容をこの将来像の中にどう埋めてゆくのが、一番重要なのではないかと思ってしまった。
- ・ 今回、将来像を修正していただいたが、前回議論のあった、広島らしさや、目標像がどれだけ「具体的に」描けるかといったお話もあった中で、誰もがにぎわいと交流ができるまち、これは日本各地のどの都市においても目指す一つの目標かなということもあって、もう少し特徴を出していった方がよいのかなと思った。
- ・ サブタイトルも「平和」と「文化」と「国内外」と書いてあり、広島市の基本構想そのものであり、まさに「国際平和文化都市」であるということを考えると、戦後から引き続く大切な目標であるが、新たな要素が少し薄いとも言える。逆に言えば、もともとの基本構想の考

え方が間違っているわけではなくて、これが本当に出来ているのか、具体的に今の広島のまちを見た時に、国際性や平和性や文化性が感じられる都市になっているかということがすごく重要なかもしれない。

- そうした意味では、将来像のタイトルがどうかということ以上に、それがどういう道筋をたどると実施できるのかということが重要なのではないかと思う。
- 「にぎわい」と「交流」は目的のように見えるが、どちらかというとも結果に近いのではないかと思う。つまり、どういったことをやったら、にぎわいと交流が生まれてくるのかということがとても重要である。
- 例えば、来訪や滞在を増やしていくことが目標になってしまうと、来訪者数のカウントだけが見えてしまって、イベントをたくさんやって、イベント疲れだけで終わってしまうとか、そうしたことにならないようにする必要がある。
- もちろん、盛り上げていくために取り組みを進めていくのではあるが、その盛り上げをどのような形で、どのような目的のもとにやっていくということが重要なのではないかと思う
- 私は外部から来ていて、いつも横浜の事例を話させていただいているが、近年、横浜では2020年のオリンピックもあり、活気というか、開発が増えてきている。しかし、まだ、横浜のまちの中だけでパイを取り合っているという状況になっているところがある。
- そうなると、一見賑やかに見えるが、横浜全体で見ると賑わいになっていない可能性もあるので、そうしたことも含めて、何を実現していくことが重要なのかを考えていく必要があると思う。
- 後は、本日のプレゼンのように、芽をたくさん増やしていくことそのものが、結果として魅力や、賑わい、交流が生まれてくることになると思う。
- うらぶくろや仏だん通りのような活動が、同時多発的に生まれ、みんなで切磋琢磨し合って魅力づくりを進めていけば、その結果として、訪れる人が増えていくと思う。
- 例えば、横浜市では、そうした自発的なまちづくりのルールや計画を策定する人たちへの支援制度として、横浜市地域まちづくり推進条例というものがあり、地域まちづくりのプランや、地域まちづくりのルールを地域の組織が作成すると、そのプランを行政が認定してくれるという制度がある。
- このようなことが位置付けられていくと、いろいろなまちから様々なプランができてきて、魅力づくりに繋がっていくと思う。
- また、札幌市の事例であるが、北3条広場という場所では、道路を廃止（廃道）しないまま「広場化」する取組みを、条例を用いて行っている。目の前の道路が広場になり、そうしたものをうまく使いながら、官民連携により魅力を創出していくような「まちなかのあり方」というのが、期待されるのかなと思う。

【平尾委員】

- 全体を通して3つ発言をさせていただきたい。
- 1つ目は、最初の将来像等については、市や県の皆さんに対し、色々と言いたい放題言っている中、まとめていただきお礼を言いたい。
- 一方で、この将来像をフラッグシップとして持つていくためには、もう一歩、ワクワク感が

欲しい。私がリーダーであったら、「これに向かって行こうぜ」という時に、現内容では引っ張るのが難しいなと思った。

- とは言え、これ以上事務局のみなさんに考えてもらうのも大変だと思うので、例えば、もう少し小グループに分かれ委員どうしで意見を出し合ってみるといったことも、今後の議論の進め方としては、あるのかなと思った。
- 2つ目は、先ほどの皆さんの事例は本当に勉強になると思い、アイデアについては使わせていただきたいと思いながら聞かせていただいていた。
- 中でも、奥原さんがおっしゃっていたことであるが、自分もNPO活動をしている一人として思っていたことで、行政の皆さんにお願いしたいと思うのは、企画や運営やデザインとかではなく、市民の活動をサポートして下さい、お墨付きを是非くださいというところである。
- 先ほどの野原先生の話にもあったように、お墨付きという形でフォローする、バックアップするということが一つと、奥原さんがおっしゃられていたことで、規制の緩和は行政しかできないことである。
- この規制があるからつぎの一步を踏み出せないよねといったところを一緒にやらせていただくことで、都心のエリアの独自性が出てくると思うので、市民へのサポートと規制緩和について行政にお願いしたいと思う。
- 最後の一つは、谷川さんがおっしゃられていたことだが、インバウンドにしても、最近は瀬戸内DMOも立ち上がったが、中四国など広域の視点から見た場合、広島がどう見えてくるかといった視点を入れていくこと。ぐっと引いて、このエリアを見てみるといったことも必要ではないかと思う。

【藤波委員】

- 私は、広島に住んでいるわけではないが、今日、「うらぶくろ」や「仏だん通り」の取り組みを聞いて、広島に住んでみたいと率直に思った次第である。
- 住んでみたいと思うことは、凄く重要なことだと思う。つまり、今、日本全体を見た時に、都市、街、集落に集まって住む理由が無くなってきていると思う。その理由は、高速道路などのインフラがどんどん整備されていることが一つと、ICTがどんどん進展し、仕事はその場でできたり、いろいろなものがネット販売で済むようになったこと。
- それとともに、物流の方も劇的に変わってきており、大抵のものは、翌日に届くといった形が整っている。そのような環境の中で、都市に住むといった理由が非常に弱くなってきていると思う。仕事も郊外でできている人も多いと思う。
- そうした中で、なぜ、広島に住むのかといったことを考えた時に、そこには住むことに楽しみがあるといったことであると思う。
- 付加価値を提供することができない都市は人から見捨てられてきてしまうのではないかと感じる。そのため、個々の取り組みがどんどん結びついていくことで、大きな魅力を持つ都市になってほしいと思う。
- 奥原さんにお伺いしたいが、資料を見させていただくと、完成度が高い。活動の中心となっておられる方に、デザイナーや設計者といった、かなりプロっぽい方がおられるのか。

【奥原副理事長】

- ・ そうした方がいる。当然、私や私の仲間だけでなく、たくさんのフォロー、賛同者、むしろ、これは面白そうだからやりたいと思う方々がたくさんついてきてくれないと、あのようなアウトプットもできないし、必要だと思う。

【藤波委員】

- ・ ありがとうございます。それは地域の方や商店街の方か。側近についておられる方か。

【奥原副理事長】

- ・ 具体的な名前をあげると、株式会社GKデザイン総研のある方に、ライフワークとしてずっと付き合っていていただいている。こういう方がおられないと、今日のような発表はできていない。

【藤波委員】

- ・ ありがとうございます。そうした方がおられるということも、資源であり、大きな魅力であると思う。こうしたことを生かしつつ、住んでみて魅力的なまちになるといったことは重要だと思う。
- ・ そして、この将来像の修正案を見てみると、住むまちといったことも念頭には置かれていて書かれてはいるが、それが少し弱いのかなと感じる。
- ・ やはり、都市としての魅力がないところには、人も集まってこないと思うので、住んでいる方の楽しみを少し進めるようなまちづくりというものもあってもよいのかなと感じた。

【山田委員】

- ・ 将来像について、前回出していたいただいた案では、「主な取り組みの方向性」に書かれている細かなハードやソフトの面を含めた都市機能の整備などの具体的な個々の案と、「将来像の案」とが、ミスマッチというか、少し言い表せていないといった印象を持っていた。つまり、「生き生きと輝く」や「平和を感じる」といった非常に漠然とした用語が気になっていた。
- ・ 今回の将来像の修正案を拝見させていただくと、言われたように、多少、漢字が多いとか、要素を盛り込みすぎていて広島らしさはどうなのか、といったことは、なきにしもあらずであるが、私としては、非常によくぞここまでといったようには感じている。
- ・ 今からの30年を考えると、今までに無かった「多様な主体」や「平和と文化の架け橋」など、10年前、20年前の計画ではおそらく出てこなかった用語が盛り込まれおり、こうした方向で30年やっていきたいといった方向性は読み取れるのではないかと思う。
- ・ それに、広島市都市計画マスタープランの「活力・魅力・快適性」といった用語とも繋がることもあり、私としては、この将来像案は支持したいと思う。
- ・ もう一つは、この取り組み案の方向性についてであるが、「エリアマネジメント」といった領域に非常に興味を持っている。
- ・ 先日、市の方も随分とお見えになっていたが、ある講演会（エキキタまちづくり会議講演会）

に伺わせていただいた。その際に、全国的に巨大な駅周辺の開発が非常に進んでおり、それに伴って、周辺の地区が衰退していく、これは当然のことなのだけれども、そうした懸念材料があるというお話があった。

- ・ 広島の場合、駅周辺の大規模な開発に伴って、今後、紙屋町・八丁堀地区はどうなるのかなと気にはなるのだが、実は、この計画の都心というものは、ひろしまワールドカフェのテーマでもあった、「だえん（楕円）」であるということ。
- ・ 私は、この「だえん」といった考え方は、非常に大きな意味を持っていると思っている。紙屋町・八丁堀地区、そして広島駅周辺地区というのではなくて、「だえん」というエリアがきちんと設定されているということをもう少し、クローズアップしていただきたいと思う。
- ・ この資料では、エリアマネジメントの促進は、「安心・安全で快適に生活できる」という目指す姿の一つの手法のような形で書いてある。しかしながら、実はこの「だえん」といったエリアの中で、賑わいや交流、回遊や往来の仕方、安心・安全などといったことを考えなければ、おそらく紙屋町・八丁堀地区と広島駅周辺地区をつなぐ空白地帯に対する対応も遅れてくるのではないかと感じている。
- ・ エリアマネジメントを促進するということは、この目指す姿の大前提、枠組みのようなところに位置付けられるものではないかと思う。

【下村委員】

- ・ 今回、私は市の商店街連合会の代表で出席させていただいているが、広島市中央部商店街振興組合連合会の代表もさせていただいている。
- ・ 先ほど奥原さんから説明があった「うらぶくろ」、それからもう一つ、先ほどお褒めいただいた「イノコ祭り」を実施しているNPO法人「セトラ広島」と、この二つの団体があることで中央部は安心かなと奥原さんには期待をかけている。
- ・ 将来像の修正案を出していただいたが、将来像の中で一番上の主たる「誰もが集える、にぎわと交流のまち」という言葉は、どの都市にも当てはまり、どの都市でもいいのではないかと。広島だけでなく、呉もこうなればいいのではないかとといった形であるので、もう一工夫が欲しいと思う。
- ・ また、将来像の中に、「広島らしさ」が出ていないといったことも、少し残念な気がする。
- ・ それと併せてであるが、先ほど申し上げたとおり、広島市の商店街連合会の代表でもあるので、商業者としての賑わいといった観点から、発言させていただきたい。
- ・ これからは、基本的には人口減ということで、広島市も将来的には人口が減っていくが、市長も言われているように、200万人都市圏といった形で、柳井市の方まで含めた形での流入を考えないといけない。
- ・ 皆さんもご承知のとおり、広島は非常にオーバーストアの状態にある。さらに今度は、石内地区にもイオンができる。一部では、もう一つアウトレットが廿日市にできるといった話も出てきている。こうした中で、買い物難民等が出てきていることも広島の問題となっている。
- ・ 確かに広島は、コンパクトシティになってはいるが、その周辺の山に張り付いた団地等では、高齢者などが買い物難民となり、益々ひどいことになる可能性が高いということが現実問題として起きている。

- この辺のことを含めて、静岡市などが取り組まれている「まちづくり条例」、これは、まちづくりとして、大型店の排除といったらおかしいが、基本的には排除である。そうした形のものが、広島市においても、ある意味でまちづくりのために必要ではないかと思う。
- 大型店を排除、規制できることが、広島の町にとっては一番いい形であり、こうした形を進めていかなければ、中心部を含めた広島市内では、シャッター通りになりますよということ。
- 我々の本通りも含めて、広島の顔がそこにはあるが、大型店の立地により、賑わいを作る原点となるようなところが崩れてきている。それを規制するといった意味で、条例等についても、考えていただければと思う。
- また、楕円形の商圈といったことについては、今、検討会をやっているが、西原さんからの発表にもあったように、まちなか西国街道を中心としながら、京橋沿いのところをどうコネクトをして、どのように紙屋町・八丁堀地区と結びつけていくかということが非常に大きなポイントになっている。
- まちなか西国街道周辺には、とんがったお店がいろいろあるが、それを紹介するための手段をどうすればいいか、商工会議所でも話を進めているところである。
- 楕円形の商圈といったことで取り組んでいるので、その辺のことも合わせてやっていかないと、なかなか賑わいも作れない、回遊性豊かなまちになっていかないのでないかと思う。
- もう一つ、申し上げるなら、球場跡地はどうしたのかということだけお伝えしておきたい。

【佐藤委員】

- 3名の方のお話は、すごく参考になるお話だった。
- やはり、民間の動きは、現場から見えるニーズを形にしている。
- 「うらぶくろ」では、例えば壁の落書き消しとか、そこまでするのだ、素敵だなと思った。
- こうした活動を、もっともっと表に出した上で、目標や将来像の案が、その形と繋がっていけば、すごくいいなと思った。
- 奥原さんが言われていた「風」、広島風というように、「仏だん通り」にもつながることだが、同じキーワードが入っていれば見えてくる。
- 飲み会に出かけられない主婦たちは仏壇通りについての知識が少ない。むしろ女性にとって、仏だん通りは、なかなか踏み入れられない場所だと思っていたが、女性が嬉しい体験イベントなどが多く開催されている。
- それについて、私たちが思うことは、「あそこで面白いことをやっているよ」と周りの方や観光客に伝える役目が広島市民にはあると思う。
- そこが伝えられる仕組みは、女性の口コミワードであり、他県の人に広島をどのように伝えるかということが、活性化するために非常に重要なのではないかと思った。
- それが目標の「誰もが集える」や「にぎわえる交流のまち」、大きく取りまとめれば、そうしたワードになっていくのではないか。
- やはり、実際の活動をされている方は、どのように活動を伝えていくかについては、なかなか手が回らないこともあると思う。そこを市民全体が、「風」というか、「広島らしさ」がどういう「風」なのかということ語れる街にしていかなければいけないと思った。
- 私も宮島口でお店をやっており、「宮島の次はどこに行ったらいいのだろうか」と尋ねられる

ことがある。こうした地域の活動を伝えるパンフレットが市外にも浸透していき、ここが面白い、ここが広島風なのよと伝えられる市民になっていきたいと思う。

- ・ 下村さんが言われたように、大型の量販店が出来てくるが、そこにも広島風があれば、私はウェルカムではないかと思う。
- ・ 似内さんも言われていたが、やはり「まちなか」には、車で行かない楽しみ方を作っていたきながら、「広島のことを見ないで帰れないよ」といったことを私たち市民がみんなでやりますよと、いったことを宣言していきたいなと思った。

【小谷委員】

- ・ 将来像については、このような案で、今から決められるということだと思う。
- ・ 官民連携といった言葉があるが、どちらかというと、市民個人個人と、企業などが積極的にまちづくりに携わっていける体制といったことが非常に重要なのだと思った。
- ・ 規制についても、緩和する所と緩和してはいけない所があると思う。今回の都心についても、活性化するためには、非常に難しいのかもしれないが、規制の緩和が必要だと思った。
- ・ 一方で、先ほどの下村委員の話を見ると、規制すべきことは、きちんと規制していかなければいけない。みんな公平にしようとするのと全てをオープンにしないではいけない。
- ・ そこで、よく国が掲げる特区があるが、私も勉強不足でよく分からないが、こうした特区の指定などが広島でもできるのかどうかということ。
- ・ 単純発想であるが、今回の委員会の中で、ここを活性化していこうといったことがあれば、特区を指定して、そうした方針の中で規制を緩和して、みんなが活性化できる体制づくりをしていけばいいのではないかと思う。
- ・ 「うらぶくろ」や「仏だん通り」の取り組みの話聞いて、私もずっと広島に住んでおり、聞くには聞いていたが、先ほどの仏だん通りの祭りについては、正直言ってあまり知らなかったことなので、恥ずかしいと思った。
- ・ そうした意味で言うと、お祭りなどについては、もっと広島市などの行政が、広報などで宣伝していただくことも必要ではないか。テレビの取材などでも、来ていただくのにはあまりお金がかからないが、スポンサーがつくとお金がかかると思う。地域の方がやると地域の方にお金がかかってしまう、広報のような格好でできると、私も含めて、これに是非行ってみたいといった印象になるのではないかと感じた。

【伊藤委員】

- ・ 将来像や、目指す姿の案については、これはいったん置いておいて、この先に、もう少し具体的なことを考えていく中で、こうした所を前面に押し出したらいいなといった話が出れば、そうしたことを、キーワードとするよう、これからの検討の中でやっていけば良いのではと感じている。
- ・ 本日は、歩行空間や公共空間の使い方といったお話があったかと思うが、その点で、これから車を抑制して、どのように回遊しやすくするのか、歩きやすくするのかといったことが、これからの広島市の都心の魅力を引き出すための重要な取り組みになると感じている。
- ・ 先ほどの奥原さんの「うらぶくろ」の話の中で、「車を抑制する道の作り方」といったことが

あったが、こうした提案には様々な抵抗があるのが常であり、恐らく非常に苦勞しながら取り組まれているのではないかと想像している。

- ・ 公共空間の使い方も含めて、今後、このような取り組みを進めていくに当たり、行政側でどのような工夫やバックアップが出来るかといったことについても、考えていくことが必要ではないかと感じた。

【奥原副理事長】

- ・ 本日は、貴重なお時間をいただきありがとうございました。我々がやっていること、考えていることをお伝えできただけでも一歩前進と思っている。
- ・ 何より楽しみにしてきたが、広島市と県が改めて30年後の都心のビジョンを描こうということで非常に期待している。
- ・ 是非とも、信じられないくらいワクワクするようなビジョンを描き切っていただきたい。ビジョンについては、時代の背景とともに何回でもリバイスして、何回でも改定していただいて、どんどんとワクワクするものを織り込んでいただければと思う。
- ・ 同時に、我々は我々で頑張ってくださいということと、こうした活動がさらに増えればいいと思う。
- ・ 私たちは、小さな事例を一つずつ積み重ねていこうと思うので、ぜひ見てやっていただきたい。
- ・ 最後になるが、似内さんの資料の下から3つ目に、「唯一無二の存在感」とある。私は呉市の出身であるが、広島というのは、ちょっとやそっとじゃないまちだと思う。
- ・ 先ほど、広島は中国地方の代表となるまちとおっしゃられていたが、そうではなくて、ちょっと風呂敷を広げると、世界を変えていけるような、そうしたまちに成り得る存在感があると思う。
- ・ 30年後の広島の都市での生活が、豊かな暮らしで、それが、世界の方々からの希望になったり目標になったり、どうしてもここ、広島がいいといった風にするのが、僕たちの使命ではないかと思っている。
- ・ 小さなことからしか積み上げていけないと思うが、福岡ではなく、名古屋でもない唯一無二の、この広島のまちづくり、30年後を目指して一緒に頑張っていきたいと思う。

【西原会長】

- ・ 広島にいて本当に誇りに思う。
- ・ 私は高齢化しており、その点では少し辛いですが、今悩んでいることは、まちなか西国街道の活性化委員会、または協議会を作りたいと考えている。しかしながら、実際には、その活動もだんだん高齢化しており、私どもの能力では、エリアにしろ、具体的にどのように進めていくかを決めていくのにもスタッフが足りない、そうした組織作りの面で非常に悩んでいる。
- ・ さらに、本当は、仏だん通りを含めた西国街道周辺で、昼間の賑わいについても創出していきたいが、実際のところは、非常に伝統的な工芸品である広島仏壇の産地としても、急激に縮小しているのが実情である。
- ・ 実際30年後には、おそらく産地形成されていないような状況にあると思う。これは、全国

の伝統的な工芸品産地、仏壇に限らず、焼物にしろ、織物にしろ、全ての産地に通じていると思う。

- それと合わせて、広島の場合は、戦後の広島像しか描かれてないような感じがする。とにかく400年の歴史の上には、様々な取り組みが行われてきたと思う。被爆を契機に復興ということばかりに力を入れて、本来の歴史や文化といったことが消えかけていて、あまり風格のない、奥原さんの言う「風」のない都市になっているのではないかと思う。
- 少し消極的な意見で申し訳ないが、この会を通じてぜひ歴史や文化的な面、文化財の保護などについても、目を向けていただければと思う。

【似内部長】

- 私は、広島出身の人間ではないが、先ほど申し上げたとおり、20年近く前は、広島に住んでおり、本当に広島はすばらしい街だと心底思っており、時々、プライベートでも、広島に来ている。
- 広島の素晴らしさは、先ほど申し上げた街の資源もそうであるが、川や緑の豊富さなど、色々あると思うし、人の気質についても魅力だと思う。
- こうした個性を前面に出して、広島が他の地方都市と違うといったところを打ち出していくと、他の地方都市とは違うといったことをアピール出来るのではと思う。
- 広域で考えた場合、瀬戸内や山側なども含めて、豊かな資源があると思う。こうした広い観点で、広島の位置付けを捉えていくことで、また新しい発見があるのではないかと期待している。

【竹中局長】

- 本日はどうもありがとうございます。改めて、御三方の話も聞いて、これまでも言葉として出てきていた「エリアマネジメント」、この考えをしっかりとっていくことが必要だと思った。
- もちろんやろうとすると、実質負担の関係や、合意形成、それにはエリアはもちろん、地域としての考え方や、その範囲を考える必要がある。そこに行政との関わりを含めて、これからまちづくりを進める上で、エリアマネジメントをより考えていかななくてはならないという意を強くしたところである。
- もう一点は、本日も、似内さんから、色々な事例の紹介があったが、我々の取り組みを含めて、視野を広げる、事例を知っていくといったこと。
- 他都市のこともよく知って、その中から具体的な取り組みで還元できる部分なり、逆に広島の違うところを生かしていこうということを知ることができるのではないかと思った。そこが、今後、具体的な取組を考えていく上での課題かなと思う。
- 先ほど奥原さんから「世界を変えていける都市」といったお話があったが、広島県知事の湯崎からは、一步上を目指すぐらいでやらないと、最低限たどり着かなくてはならないところにもたどり着けないとよく言われている。
- 広島の都心が、中四国の拠点として、しっかりとしたまちになるには、日本のトップになるくらいを目指さなくてはいけないし、日本の中で東京や大阪からも人を引っ張ってこられるような都市になるには、世界を目指していくくらいの気持ちではないといけないと思う。そ

のような気持ちで、引き続き頑張ってもらいたい。

【宮原局長】

- ・ 今日には奥原さん、西原さん、似内さん、貴重なお話をいただきありがとうございました。
- ・ 目標、将来像の件に関して言えば、国際平和文化都市を目指している広島市にとっては、必ずしも市民の方だけでなく、関心のある方、関心のない方を含めて、より多くの方に広島に目を向けていただき、外に向けて発信していくことを目指すといった思いから提示させていただいている。
- ・ 西原会長さんのお話にもあったが、被爆以前の話を含めて、もう少し長い時間軸で広島歴史・文化といった魅力をアピールしていくことも必要かと思う。
- ・ それから似内さんのお話を踏まえると、広島に来られる方がどのようなニーズを持っているのか、そこの所をもう少し、我々がしっかりと捉えて、キャッチアップをしていかないと、魅力が高まっていかないかなと感じた。
- ・ 最後に、奥原さんから、いろいろな規制の緩和や、行政の支援をといったお話があった。大都市であれば、容積率の緩和など、民間にインセンティブを与える手法が取られているが、広島くらいの都市になった時に、どのような支援であれば、民間の方がもっと活躍しやすくなることに繋がっていくのか、知恵をお借りしたいと思っている。本日は本当にありがとうございました。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございました。
- ・ 将来像について、事務局から修正案が示されたが、様々な御意見があった。将来像が、本当に一言でいいのか、3つぐらいのキーワードにした方がいいのではないかと、いろいろな形でわかり易いというか、目標・将来像が、皆さんに出来れば親しんでもらえるようなものにしていきたいと、個人的には思っている。
- ・ 本日もいただいた御意見を踏まえ、事務局で将来像や目指す姿を再検討し、来年度の議論につなげていくということでお願いできればと思う。
- ・ 来年度は、施策の方向性、施策の展開を検討していくことになっている。事務局には、できるだけ早いうちに再検討した結果等の内容をお示しいただき、議論をつなげていただければと思う。とりあえず今日の段階ではここまでということで、事務局にお返しさせていただきたい。

【事務局】

- ・ 本日は、貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。
- ・ 本日、いただいたご意見等を参考に、事務局で検討を進める。
- ・ また、本日の議事で追加の意見等があれば4月6日（水）までをお願いする。
- ・ 連絡事項として、小谷委員におかれては、この度の人事異動で、広島銀行公務営業部長を転出されるため、今年度末をもって、都心活性化プランに関する懇談会の委員を退任される。
- ・ また、野田委員におかれても、国土交通省中国地方整備局企画部長を転出されるため、同様

に、都心活性化プランに関する懇談会の委員を退任される。長い間ありがとうございました。

- 後任の委員については、後日選任の上、皆様にご報告させていただく。
- 次回の日程は、別途、調整・連絡させていただく。
- 以上をもって、第4回懇談会を閉会する。ありがとうございました。